

東京歯科大学同窓会会報

東京歯科大学同窓会
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼
発行人 北村勝衛
電話東京(301)3421(代)

元旦に

新年名刺交換会開催

本年も恒例の新年名刺交換会が母校、同窓会共催により、多数会員参加のもとに母校大ホールにおいて元旦の午前十一時より盛大に開催された。

北村勝衛教授の司会により、まず中井武一郎新会長の新年の挨拶ならびに就任に際しての挨拶があり、今後の母校、同窓会発展のため会員諸氏の絶大なる御協力と御鞭撻をお願いした。



中井会長就任の挨拶 (木村哲男氏撮影)

いするむねをのべられた。

つづいて福島秀策学長が登壇、年頭所感のあと今回の美譽、すなわちアメリカに在在の同窓会員早野米蔵氏ならびに母校には直接的な関係のない静岡在住の静岡新聞社長及び静岡放送社長大石光之助氏の東京歯科大学当局に対する寄附行為について報告があり、感謝の言葉がのべられた。つづいて恒例の北村宗一氏の鶏鳴曉を告げる「東天紅」鳴き初めがあり、榎本美彦氏の音頭により全員乾杯、新年祝賀会が開始された。宴たけなわにして三崎鉢郎教授の謡曲「鶴亀」の謡初めがあり和気霽々のうちに会を終了した。

就任の挨拶

中井武一郎

学に乏しく徳に薄き身を以て同窓会会長に御推挙を頂き責務を深く感じて居ります。会則の定める処に従い微力ながら目的推進に努力致します。

会員各位の御指示御鞭撻を懇願致します。

講演会開催御通知

左記次第により同窓会主催による講演会を開催致しますので、万障お繰合せの上御参会下さい。

記

日時 昭和三十七年二月十八日(日) 午後一時—四時
場所 母校講堂

・「花沢鼎先生の遺徳を偲びて」

松宮誠一教授

花沢鼎先生がわが国における歯科医学の発展に貢献された偉大な功績はまことに不朽不滅であり、ここに先生の十三回忌を迎えるにあたり、われわれは心からその御遺徳を偲びたい。

幸い、大学やわが病理学教室には、東京歯科大学時代からの貴重かつ珍らしい記録写真が多く保存されており、また、御友人やお弟子のうちに、思い出深い写真、映画フィルムなどをお持ちの方々が少なくないので、これらをお借りして映写し、当時の先生をはじめ、周囲の人々のなつかしい面影にも改めて接する機会を得たいと思う。(演者抄)

・「欧米視察談」 〓 特に欧米の歯科大学及び病院について 〓

関根永滋教授

昨年九月より三ヶ月にわたって主として欧米の歯科事情を視察され、多大の収穫を携えて帰国された関根教授に、同教授の慧眼をもって眺められた諸外国歯科大学及び病院の実情について御講演をお願いすることになりました。

昭和三十七年二月五日

東京歯科大学同窓会

会長 中井武一郎

会員各位 殿

なお、例年の通り器械材料等の展示即売会も開催される予定です。

おもな内容

- | | |
|-------------|---|
| 同窓会講演会プログラム | 1 |
| 新役員紹介 | 2 |
| 東京歯科大学学会 | 2 |
| 母校だより | 3 |
| 東京歯科大学図書館 | 4 |
| 学位受領者紹介 | 5 |
| 支部だより | 6 |
| クラス会だより | 6 |
| | 8 |

新役員紹介

会長

中井武一郎

明治二十六年 群馬県出生
大正五年 母校卒業
昭和十三年 母校教授

その後東京都立大久保病院歯科
院長、東京都職員飯田橋病院歯科
院長、東京都交通局病院歯科院長
歯科医師国家試験委員等を歴任。



現在東京都社会保険支払基金專
任審査委員
現住所 東京都目黒区柿ノ木坂一
六

副会長 萩原 義雄 (再任)

片山 清一 (〃)

理事 北村 勝衛



明治三十四年 宮
城県出生
昭和二年 母校卒
業
現在母校教授、母

校副院長
現住所 東京都世田谷区世田谷一
一六五

井上久男



明治三十五年 兵
庫県出生
大正十五年 母校
卒業

社法人あそか病院歯科院長に就任
現在に至る。なお昭和二十一年現
住所に歯科診療所開設。現在東京
都社会保険支払基金審査委員。
現住所 東京都調布市上布田町二五
八

清信 静夫



明治三十七年 福
島県出生
昭和八年 母校卒
業

住所に開業、その間荒川区歯科医
師会長、東京都歯科医師会社会保
險常任委員等を歴任、現在東京都
医政連盟荒川支部長。
現住所 東京都荒川区町屋三ノ一三
九〇

後藤 芳郎



明治四十二年 茨
城県出生
昭和十三年 母校
卒業

学部歯科教室員、中島飛行機附属
病院歯科医員、世田谷区歯科医師
会理事、同社会保険協力委員会委
員長、東歯同窓会評議員等を歴任
昭和二十年現住所に開業。

現住所 東京都世田谷区経堂町一七
一

景山 博水



大正三年 島根県
出生
昭和十一年 母校
卒業

講師、社会保険協会都南病院歯科
部長等を歴任、昭和三十一年現住
所に開業、現在葛飾区歯科医師会
監事、東歯同窓会葛飾支部長。
現住所 東京都葛飾区下小松町七四
八

田辺 明



昭和三年 新潟県
出生
昭和二十六年 母
校卒業

物理学教室入室、同教室助手、昭和
三十年現住所に開業。
現住所 東京都調布市国領町二二三

小谷 虎次郎

(再任)
堀 真一 (〃)
安 嶋 宣 忠 (〃)
天 野 博 德 (〃)
佐 藤 徹 一 (〃)
見 明 清 (〃)
重 浦 靖 治 (〃)

監事 春原 定栄



明治三十年 長野
県出生
大正七年 母校卒
業
大正八年現住所

に開業、その間東京府歯科医師会
理事及び代議員、千代田区歯科医
師会長、東歯同窓会千代田支部
長、日本歯科医師会認定委員長、
東京都歯科医師会医療審議委員
長、東歯同窓会評議員等を歴任、
現在母校評議員、日本歯科医師会
認定委員、東京都歯科医師会代議
員。
現住所 東京都千代田区神田神保町
三ノ九
高北 義雄 (再任)

退任御挨拶

退任役員一同

今般私共は任期を満了し退任致すことに相成りました。在任中賜わ
りました全国会員各位よりの御支援に対しまして心から御礼申し上げ
ます。

昭和三十六年十二月三十一日

会員各位殿

東京歯科大学学会例会御案内

同窓会主催講演会の前日二月十七日(土)に東京歯科大学学会例会
を左の次第により開催致します。同窓各位の御来会をお待ち致してお
ります。

日時 昭和三十七年二月十七日(土)

場所 東京歯科大学講堂

次第 第一

○午後一時——午後四時三十分

一般演説

○午後四時三十分——午後五時

就任演説

「コレステロールの吸収について」

生化学教室 鈴木竜太助教授

○午後五時——午後六時

帰国講演

「第二回欧州ビタミンB₁₂シンポジウム出席を中心として」

衛生学教室 上田 喜一教授

○午後六時——午後六時三十分

映画「今日の輪液」(第二部)(イーストマンカラー十六ミリ全三巻)

東京歯科大学学会会長 長尾 喜景教授
司会 福島 秀策

同窓会会員各位殿

母校だより

◇第三十回歯科医師国家試験実施

本学において行われた今回の歯科医師国試の結果が去る十一月十日厚生省から発表され、本学受験者二十四名中十九名が合格した。

◇日本医学図書館協会へ加盟

本学の図書館は去る十一月十一日行われた日本医学図書館協会総会において協会に加盟することが承認された。現在これに加盟している医科系図書館は四十八館で、歯科の単科大学としては本学が最初に加盟したわけである。

◇動物慰霊祭行わる

去る十二月二十三日、本学最初の基礎学教室合同による実験用動物慰霊祭が催された。

◇日本学術会議会員候補者決定

次期の学術会議会員選挙は今秋行われるが、本学から松宮誠一教授をその候補者として推薦することが決定された。

◇人事

新任

鈴木竜太助教(生化学)

加藤倉三教授 市川病院副院長

柳 義文副手 (解剖) 三六・一一・一

重松知寛 (口外) 三六・一一・一

服部幹夫 (口外) 三六・一一・一

休職 鈴木和夫助手 (解剖)

自三六・一一・一至三七・八・三一

辞任

小林喜久子助手 (放射線)

三六・一一・三〇

◇社会保険指導者講習会開催さる

基礎合同の動物慰霊祭について

薬理学教室 田村俊吉

私は実験に使われる動物諸公く、かわいそうなものはないといつも考えています。モルモットなどは殺されるために生れてくるようなもので、実験者にも抵抗しない哀れな動物です。そこで目的なしに動物を殺さないで、万全な計画をたてて動物実験をするよう教室員をお願いしています。



現在全国各地においては日本歯科医師会厚生省主催により地区別に社会保険指導者講習会が開かれていて東京においても催され、母校もその会場に指定を受け一月十九日(金)にその講習会が行われた。青森、山形、群馬、新潟、長野の諸県からの講習生二十名がこれに参加し、木村教授他多数によって歯槽膿漏の各種手術に関する実技指導を受けた。

私の教室では毎年鬼、モルモット、ネズミを約千匹殺しておりま

す。毎年十二月末に私の菩提寺、本郷駒込林町の清林寺で動物供養をして、精進おろしをすることがあります。お経をきいて焼香するだけです。

は親切な、誠意をもった価値ある人を作る基礎となると信じます。本年度も是非続けたいと思います。

展のために死んだ動物の霊に感謝する気持ちをはいて

は親切な、誠意をもった価値ある人を作る基礎となると信じます。本年度も是非続けたいと思います。

展のために死んだ動物の霊に感謝する気持ちをはいて

は親切な、誠意をもった価値ある人を作る基礎となると信じます。本年度も是非続けたいと思います。

展のために死んだ動物の霊に感謝する気持ちをはいて

は親切な、誠意をもった価値ある人を作る基礎となると信じます。本年度も是非続けたいと思います。

展のために死んだ動物の霊に感謝する気持ちをはいて

在米同窓早野栄蔵氏の美挙

福島秀策

本学の前身東京歯科大学専門学校第一回卒業(明治四十四年)の早野栄蔵氏から別項記載の通りの書信に添えて米価壹万弗(邦貨換算三五九九、五〇〇円)を昨年十二月本学に寄贈された。

同氏は横浜の歯科界の元老であった早野速之助氏の後継者であられるが、明治四十五年九月(一九一二年)当時助手であった同氏は留学生として米ノースウエスタン大学に派遣されたが血脇校長のお許しを得てその儘滞米、その後コロラド州デンバーに開業され今日に至った方で既に七十を越え尚現地に日本人開業医として絶大な信望を博してられるものである。

たまたま昨年十一月同窓会総会当日卒業五十周年の記念クラス会を催した席上集まった第一回卒業生各位の寄せ書を同氏に郵送したことから平素の御考えが実行に移されることになったものと拝察する次第である。同窓の母校愛に感激且つ感謝に堪えないところであります。この朗報を携えて関山丑次郎、杉山警三、村山寛弥三氏(何れも同期卒業生)が本学を訪問されたので直ちに三氏を案内して千葉県八桂霊園に在る血脇花沢両先生の墓前に、奥村先生にはその途次市川進学課程に立寄り校庭にある奥村先生胸像の前に夫々報告して共々早野氏の美挙に對し更めて感謝した次第である。

拝複 去月に御出しの二回の御手紙をありがたく預きました。大兄が五十周年のクラブ会を催された事を非常に喜び、又御集りのドクターの方々の御書きになられたのを拝見致しまして、誠に感謝に堪へません。どうぞ御面会の節くれぐれもよろしく御伝言下さいませ、そして皆々様の御多幸を祈ります。

次に御存じの如く私は一千九百十二年に母校より留学を命ぜられ渡米、其後血脇校長の許しを得て永住することになりました。私がこれまでに歩みよりしましたのもひとへに此母校のおかげであるとつくづく思うにつれ心からこれ又感謝する次第であります。それで茲に少々ですが母校への寄附に学長宛の米金壹万弗のドラフトを封入いたしましたから、どうぞドクターから福島学長に御渡し下さる様切に御願いたします。余は後便に、

十二月 日 早野栄蔵 関山ドクター殿

(早野氏より関山氏に宛せられた書簡の転載)

松宮教授を日本学術会議会員選挙に 本学より候補者として推薦する



松宮教授

今秋行われる第六期日本学術会議
会員選挙に本学は、松宮誠一教授を
候補者として推薦することに決定し
た。

日本学術会議にはすでに本学より
第一期(昭和二十三年)に故花沢教
授第二期(昭和二十五年)に故奥村
学長が当選されて以来候補者を立て

ず他の候補に協力して来たが、今回
は学内より強い要望が起り過般の教
授会においても全員一致して当選に
努力することを申合せ、かつ、満場
一致を以て、同教授を会員候補者に
推薦することに決定したものである。

すでに学内においては学長より米
沢教授が対策委員長に、近藤教授が
幹事長に委嘱され、具体的な態勢の
整備に奮励中である。

なお、選挙有権者各位に学術会議
選挙管理会から通牒を受けられた方
は至急学内米沢教授宛御連絡願いま
す。

大石光之助氏より大学院建設資金 寄贈さる

杉山不二

静岡新聞及び静岡放送の社長であ
られる大石光之助氏は、昭和十二年
頃より本学同窓山田順策氏(明治四
十四年東京歯科大学専門学校卒業)
の紹介によって初めて本学病院を訪
れ歯科治療を受けられて以来、引続
いて同氏はもとより、その御家族、
社員の方々の歯科治療受診を推奨、
私をはじめ各科教授の永年におたる
治療を受けておられる。同氏はそ
の間において歯牙が健康の維持、生
命の確保に直結していることを深く認

識、歯科医学の重要性を強く叫ばれ
その具体的なあらわれとして去る昭和
二十二年には本学創設建設資金とし
て多額の御寄付を贈られておられ
る。今回、本学の大学院設置に伴う
歯科医学の進展の一助にとその建設
資金として金壹百万円を去る十二月
三十日付で私を通じ本学に寄贈され
た。ここに同氏の学業並びに歯科医
学に対する熱情あふれる御後援を同
窓各位に報告、併せて心からなる感
謝の意を表する次第であります。

書評

関根永滋著

根管の処置

東京歯科大学教授

杉山不二

このたび関根教授の名著「歯髓の
処置」の続篇とも云うべき「根管の
処置」の上巻が日本歯科評論社より
発行された。

著者は、本書において、根管処置
の基礎的知識としての根管の解剖を
まずとりあげ、ついで髓室並びに根
管壁象牙質について詳しく説明し、
さらに歯牙支持組織すなわち白堊
質、歯根膜、歯槽骨について、その
組織像を克明に描写している。つぎ
に疾病を起した歯牙支持組織の各種
像について述べ、これらによって根
管処置の対称となるべき各部門につ
いて、極めて正確な知識を授けよう
と計画している。

治療については、まず基本的概念
を述べ、ついで諸防湿法、器械、材
料の消毒法に言及している。本書に
記載されている根管処置の基本的知
識なくしては、実際の治療は、とう
ていこれを合理的に遂行することは
できないものであるから、この上巻
こそは、まずこれを座右に備え熟読
もって身につけるべき貴重な資料と
なるであろう。

私は、日頃から関根教授の学問に
対する情熱と真摯な研究態度に敬意
を表するとともに、この好著を敢て
同窓諸賢に推す次第である。

東京歯科大学教授 関根永滋著
根管の処置上巻 定価一〇〇〇
東京都中央区銀座西三ノ三森田ビル
日本歯科評論社
振替東京一九四九七四番

日本医学図書館協会へ加盟した 東京歯科大学図書館

新館の玄関受付を経て、さすが
しく清掃された二階への廊下、階段
を昇る。新館二階東側の基礎学諸教
授室を左手にしながら右折すると、
ほとんど廊下西側の突当りに昭和三
十二年四月に旧館より移転してきた
本学図書館の入口ガラス扉が静寂の
うちに重々しくながめられる。この
奥に書庫、閲覧室、花沢文庫、複写
室、消毒室、事務室等を擁した延面
積二百六十六平方メートルにわたる図書館
諸施設が存在する。扉を押して館内
に進むと照明、暖房等が近代感覚に
マッチして整備された図書閲覧室が
眼前にひらけ、おのずから落着いて
勉学思索にいそしめる雰囲気を感じ
だしている。西側の壁には本学の歴
代校長高山紀資、血脇守之助先生を
はじめ、奥村、花沢、遠藤先生の歴
代図書館長胸像写真がかかげられ、
明治三十九年に校舎改築を契機とし
て開設された本館の歴史がしのばれ
ると共に、我々後輩を暗黙のうちに
叱咤激励されておられるが如き感銘
に打たれる。



左手奥には主として教員の勉学の



上：書庫の一部
下：一般閲覧室の一部

左手奥には主として教員の勉学の
ために供される花沢文庫及びその開
覧室が約二十一平方メートルの広さに設置
されており、貴重図書、歯科専門洋
書等が特別書架に収められている。
この花沢文庫の東側に事務室が設け
られ、館長関根永滋教授指揮の下、
山崎潤之介主任司書の他、小林司書
高橋、服部係員がそれぞれその図書館
業務に当り、教職員、学生、専攻生
の方々のサービスに日夜尽力されて
おられる。

本図書館の最大の書庫(第一書庫)
は、入口右手奥にあつて、換気装置
消毒室等の近代設備が充分ほどこさ
れ、スチール製書架には内外専門書
が約二万冊整然と収蔵されている。
ここが過去及び現代の歯科医学の知
識の宝庫であつて、諸先輩の苦心の
業績が大切におさめられており、研
究者の勉学に絶大な貢献を果してい
る。本館の蔵書数は和書約二万冊、
洋書約一万冊、計約三万冊であり、
歯科及び医科系の学術雑誌は収蔵及

歯学士と歯学博士と

— その欧文記名法 —

教授 米沢 和一

母校で第1号歯学士が出たのが昭和28年春、第1号歯学博士の出るのが今春3月末日の予定である。さてその英文記名をどうするか、海外出張の際の名刺印刷で苦労されたことだろうし、事実各人各様(?)に書かれていて困った問題である。

本学昭和7年前後の卒業証書は和欧両文で書かれ、歯科医学士(従って歯学士も)はローマ字に添えて Doctor of Dental Science(D.D.Sc.)の称号が記載されている。然らば今度出る歯学博士を何と書くかであるが、これに対し、大学院4年間のコースを経て論文を提出し、最終試験に合格している訳であるから米国式に Doctor of Philosophy(Ph.D.)の学位がこれに当ると言う人と、国際歯科協会の要望により、財団法人、大学基準協会に対し最近本学より提案された前記 D.D.Sc.の称号がよいとなすものの両説がある(大基誌第4号の2、昭和36・7、26付)。わたしはPh.D.の学位説に賛意を表するものであって D.D.Sc.の称号は、その別称の Doctor of Dental Surgery(D.D.S.)とともに、歯学士(または歯科医学士)専用したい。

日本には歯学に修士課程はないが、米国にはそれに相当するものがあって Master of Science in Dentistry(M.S.D.)の称号を用いる。前記 Ph.D.の学位の上には、故奥村鶴吉先生が Northwestern 大学より贈られた Doctor of Science(Sc.D.)や、故血脇守之助先生が Loyola 大学から贈られた Doctor of Laws(L.L.D.)の名誉学位のあることを忘れてはならぬ。

同様に医学士は Doctor of Medicine(M.D.)の称号を用い、かつ医学博士の学位は前記 Ph.D.が正しいことになる。ただし Fulbright の基金で渡米の際、米国大使館辺りでは、在米医学博士を Doctor of Medical Science(D.M.Sc.)と訳しておられるようだが、前記歯学の場合と同様、M.D.と D.M.Sc.の混用が当然起る訳で、D.M.Sc.は適訳でないように思われる。ただし英、仏、独の学位、称号は他日に譲る。

以上でわかりかと思うが、各国で教育制度も学位規程も違うことだから、面倒なら、ローマ字で、Shigakushi(Shikwaigakushi)、または Shigakuhakushi(Igakuhakushi)と書いた方がよいし、事実、戦前本学発行の歯科学報の当時の主筆、花沢 鼎先生は Igakuhakushi を使っておられた。

正月第二週末の一月十三日、豊橋豊徳会は、にぎやかな新年宴会を催すことが出来たので、当日の模様を綴って本部に報告いたします。

豊橋豊徳会

五時から開催した。加藤一郎、伊藤寿久両氏の会場設営並に司会により、会は運ばれた。豊田真一氏が出席会員を代表し、昭和三十三年の虎年新春の祝詞と、会員諸君の健康と繁栄を祈る旨の年頭挨拶があり、藤城易都、伊藤哲両氏から豊橋地区の代表者の選出、四月

各地同窓会のうさぎ

(現住所 太田区久ヶ原町五五二)
(生理学教室)
主論文 歯牙の静電気について(大日本歯科医学雑誌第二巻第三号、昭和三十四年三月)

(現住所 杉並区阿佐ヶ谷二の五七三)
(生理学教室)
主論文 歯間液分泌に就いて(大日本歯科医学雑誌二巻三三三、昭和三十三年三月)

昭和十六年中央商業より母校に進み、同二十一年母校卒業後、北支蒙古に転戦、昭和二十三年より渋谷区中央区等に開業し、昭和三十三年より現在地に開業し、昭和三十年より母校生理学教室、伊藤秀三郎教授に師事、生理学専攻、昭和三十四年十二月弘前医科大学佐藤教授主査の下に教授会通過し、昭和三十年三月二十五日学位記受く。

昭和十六年中央商業より母校に進み、同二十一年母校卒業後、北支蒙古に転戦、昭和二十三年より渋谷区中央区等に開業し、昭和三十三年より現在地に開業し、昭和三十年より母校生理学教室、伊藤秀三郎教授に師事、生理学専攻、昭和三十四年十二月弘前医科大学佐藤教授主査の下に教授会通過し、昭和三十年三月二十五日学位記受く。

昭和十六年中央商業より母校に進み、同二十一年母校卒業後、北支蒙古に転戦、昭和二十三年より渋谷区中央区等に開業し、昭和三十三年より現在地に開業し、昭和三十年より母校生理学教室、伊藤秀三郎教授に師事、生理学専攻、昭和三十四年十二月弘前医科大学佐藤教授主査の下に教授会通過し、昭和三十年三月二十五日学位記受く。

昭和十六年中央商業より母校に進み、同二十一年母校卒業後、北支蒙古に転戦、昭和二十三年より渋谷区中央区等に開業し、昭和三十三年より現在地に開業し、昭和三十年より母校生理学教室、伊藤秀三郎教授に師事、生理学専攻、昭和三十四年十二月弘前医科大学佐藤教授主査の下に教授会通過し、昭和三十年三月二十五日学位記受く。

主論文 中枢性麻痺剤のヒスタミン遊離能とヒスタミン生成及分解酵素作用との関係(日大医誌・十八巻一、昭和三十一年一月)

主論文 中枢性麻痺剤のヒスタミン遊離能とヒスタミン生成及分解酵素作用との関係(日大医誌・十八巻一、昭和三十一年一月)

主論文 中枢性麻痺剤のヒスタミン遊離能とヒスタミン生成及分解酵素作用との関係(日大医誌・十八巻一、昭和三十一年一月)

主論文 中枢性麻痺剤のヒスタミン遊離能とヒスタミン生成及分解酵素作用との関係(日大医誌・十八巻一、昭和三十一年一月)

主論文 中枢性麻痺剤のヒスタミン遊離能とヒスタミン生成及分解酵素作用との関係(日大医誌・十八巻一、昭和三十一年一月)

学位受領者紹介

田中誠一君



昭和二十九年母校卒業後、直ちに補綴学教室に入室、溝上、北村、兩教授の指導をうく。

関泰昭君



大正四年一月十九日四谷に生る。昭和七年第一東京市立中学卒業後、東京に進み昭和十一年卒業。昭和十三年本学助手翌年四谷駅前にて開業し、同年三月東京医科歯科医科三年に編入、十九年軍医補充要員として北支に派遣され終戦後二十二年再開業の傍ら藤森工業KKにてAlloy印象材を完成した。

鈴木貞夫君



昭和十六年中央商業より母校に進み、同二十一年母校卒業後、北支蒙古に転戦、昭和二十三年より渋谷区中央区等に開業し、昭和三十三年より現在地に開業し、昭和三十年より母校生理学教室、伊藤秀三郎教授に師事、生理学専攻、昭和三十四年十二月弘前医科大学佐藤教授主査の下に教授会通過し、昭和三十年三月二十五日学位記受く。

松本宣洞君



明治学院中学を経て昭和十六年春母校卒業。補綴学教室在籍一年で入営渡満された。同二十一年秋復員し現住所たる都内、品川区西中延五ノ一二一〇に開業され、同二十七年以降私の主宰する千代田区丸の内二ノ三、東京ビル内三三、同三十四年秋から日大医、生化学教室にて研究に従事された。予て提出中の論文は同三十三年暮の同大学教授会にて伊藤良二教授主査の下、満場一致通過し、越同三十四年一月二十日付医学博士の学位記が授与された。新博士の家庭には澄子夫人との間に一男二女あり、趣味は音楽にゴルフ。慶祝(立原健彦記)

び購入継続中のものを合計すると、洋書二百五十九種、和書四百五十九種となっており、これら多数の書籍雑誌の収蔵その他全般的設備機構等々の完備が今回の協会加盟承認への大なる役割を果たしたのと思われ。希わくば、医学図書館協会加盟を契機として、関係図書館相互間のサービス向上のみならず歯科医学発展のために大いに活用されんことを……。同窓諸氏にも是非一度御来学の折、御立寄り下されんことを切望する。

現在の加盟館は次の通りである。北大、札幌、弘前、岩手、東北、福島、群馬、千葉、日大、日医、東大、順天、医歯、東歯、慶応、東名、市、慈恵、昭和、東邦、横浜、名古屋、新潟、信州、金沢、名大、岐阜、三重、奈良、京大、京都、関西、阪大、阪大、阪大、和歌、神戸、徳島、岡山、広島、鳥取、山口、久留、九大、長崎、熊本、鹿児島

主論文 腎臓の自律神経支配—腎臓神経中 adrenergic fiber と cholinergic fiber の混在について(歯科学報第五十八巻十一号・第五十九巻一、昭和三十三年十一月、昭和三十四年一月)

主論文 腎臓の自律神経支配—腎臓神経中 adrenergic fiber と cholinergic fiber の混在について(歯科学報第五十八巻十一号・第五十九巻一、昭和三十三年十一月、昭和三十四年一月)



主論文 腎臓の自律神経支配—腎臓神経中 adrenergic fiber と cholinergic fiber の混在について(歯科学報第五十八巻十一号・第五十九巻一、昭和三十三年十一月、昭和三十四年一月)

一日からの新しい豊橋市歯科医師会
長候補について、夫々協議されたい
との決議があり、前者については西
村祐祐氏、後者は城所定雄氏をお願
うことに、会員一同拍手をもって、
賛意を表わす。西村代表より城
所氏に「諸々の事情の裡に市会長に
なられた際は、減私奉公の覚悟で精
進されたい」と激励があつて、宴会
にうつる。

群馬県支部

群馬県支部に於ては、本県出身中
井武一郎先生の同窓会長就任を祝し
て、年の瀬も押し迫つた十二月十七
日湯檜曾温泉本家旅館に於てその就
任祝を催した。
年の暮の忙しい時ではあったが、
学生時代文字通り公私共にお世話に
なつた先生だけに二十八名の同窓会
員が集り、みぞれ混りの雨にかえつ
て腰を落ちつけ夜のふけるのも忘れ
て先生を囲んで楽しい一夜を過し
た。

先生も郷里の同窓会員に囲れ喜び
の顔にも緊張の色を漂せて、これが
私の母校に対する最後の御奉公と決
意の様をみせられた。
由來日本の宴会は酒の種類が少
い。然しそれを補うのに歌舞音曲が
あり、又時と処とを選ば温泉につか
つての一杯はやはり旨い。又たとえ
酒の飲めない人でも酔趣は解する。
時のたつにつれ、盃のまはるにつ
れ、席は乱れ、眼頭は上り、それか
ら席を変へておきまりの二次会、外
は冷い雨、三次会に出かけたのは？
一夜明ければ又現実に戻つてしま
う。三十七年は日歯会長の改選、参議
院選もある。同窓会員諸氏よ、中井
先生を頭に水道橋の為に頑張ろう。
当日県下の長老田部井已之八先生
が「祝中井先生同窓会長就任」と揮
毫した色紙を寄贈され、それに参會
者一同寄せ書して中井先生にお贈り
した。

出席者名簿 順不同
西村祐祐、西村秀祐、豊田真一、
藤城易都、山本弥市、山本保吉、藤
城武、山本宗、伊藤哲、伊藤孝久、
加藤一郎、丸山義、城所定雄、太田
俊雄、加藤正敏、白井智、大須賀彦
一、辻村博夫、羽田義彦、神山英夫
彦坂武。

壬戌会

高松重三、袋博、大谷盛一、森下
寿夫、今野一磨、矢内徳太郎、磯淳
治、服部久夫、森下泰夫、宮下一郎
田部井康修、大山栄一、田部井三雄
神戸満信、笠原武男、山川卯平、井

クラス会便り

田治、松坂俊雄、守谷種尾、太田虎
太郎、川越文男、富沢憲男、宮下真
治、片野光一郎、神藤義衛、武川英
男、関根友次、武安正嘉。以上

壬戌会全国大会は卒業満三十五週
年を記念して去る六月北陸に於て開
催したことは御承知の事、会報紙上
に於てもお知らせ致しました。同窓
会総会を期して北陸大会に参加出来
なかつた人達も加つて卒業三十五週
年記念大会を催したいとの事で幹事
の御尽力により諸君に案内状が発せ
られ、去る十一月十一日(土)午後四
時母校に参集して湯河原に向う。湯



河原にて温泉旅館を経営する同級生
吉川初太郎君の三好荘に到着、木の
香も新たなる新築落成の大広間に吾
々の心から迎えてくれた。吉川君一
家の心からなるサービスにて一同大
満足昔語りや近況や遠慮のない学
生時代にかえり夜の更くるのも忘れ
て語り合った。特に当日は遠く青森
の梅原君、秋田の五味君が遠路態々
参加され、来る三十七年全国大会を
東北に於て開催することに決定して
居る関係上、日時、其他のスケジュー
ルを打合せの爲と、会員の希望打
診を熱心になされ今迄にない盛会な
る壬戌会をやりたいとの熱意には、
心から感謝する。何卒全国の会員諸
君今秋は万障繰合せ御参加下さい。
当日の出席者 五味壮、梅原彰、
岩鶴俊男、平山篤、片山忠夫、浜野
喜太郎、林清、谷岡輝、谷本聰、道
巖、鈴木真一、佐々木敏夫、日吉二
三、石原健明、古川忠夫、吉川初太
郎、斎藤寛三郎(斎藤記)

壬戌会在京新年会
一月三十一日午後五時より上野山
下にて催す本年度全国大会は十月二
十一日、二日、三日の紅葉の時期に
東北大会(十和田湖、秋田方面)を
催すことになり、地元幹事となられた
五味君が実に熱心で、すでに大体の
スケジュール案を作られたので、希
望条件を打合の関係上新年会を兼ね
て開催した。遠く秋田より五味君態
々上京して詳細なるスケジュール案
の説明をなす、在京会員で出席した
大部分の者は夫婦同伴にて参加する
ことに決定した。全国の諸兄何卒興
隆同伴にて賑々しく御参加下さる
事を切望いたします。老えて益々壯
なる御元気の姿を見せて下さい。
今度遠路御上京参加されし五味君
に謝意を表します。何卒よろしく御
配慮を願います。
当日の出席者 五味壮、谷本聰、
谷岡輝、日吉二三、松元彰丸、鈴木
真一、道巖、井上久男、斎藤寛三郎
渡辺一二、古川忠夫、上原竜雄、
(斎藤記)

更生会

昨年十一月十二日の夜、わが更生
会は山下羊一郎君のお世話でできた
箱根強羅環翠楼において、久し振りに
クラス会を催し、同ホテルの大広
間で定刻の五時半から総会並びに懇
親会を行った。当夜の風景は欠席の
各位にも想像して頂けると思うが、
何分にも久し振りとあって、北から
西から来会した諸君の御対面の挨拶
は「誰だっけ？」と当惑しながら、
やっと思い出した「ああお前か！」で
けりがつくつと云つた次第で、それは
なごやかなものであった。豪華な宴
会の後、一室に会して、昔話に花
を咲かせ、時の経つのも知らずとい
つたところ、一泊して十三日の朝、



今回のこの申合せをし、これからは再々会合することの原則を確認した。この席で菅波勇君から、今年七月野馬追いの頃、福島県四倉で、みんなどうに食って大いに楽しもうという提案があり、是非そうして呉れと一同の賛成をえた。このお世話には多分菅波君に一任(?)の形となるが、御期待して頂きたい。

当日の出席者は三十一名(写真後列左から小杉、盛田、山際、藤野、井上(長)、時田、桜井、中列左から山下(羊)、今西、江藤、白井、横山大越、大久保、宮下、前列左から坂野、北村、前田、高橋(進)、菅波、井口(寿)。

大いに張りきって本会の世話をしていた山下(又)君御実兄の御不幸で、又水野君が、出席を熱望しておったのに神経痛で歩行さえも十分でないといふ欠席となり残念だったが、エジプト、アフリカ、ヨーロッパの旅から帰

ったばかりの大久保君が元気で出席したのは幸いであった。又盛田(秀)君の奥さんとお子さん二人との御家族四人連れの出席は特に本会をなやかにした。

今回は皆さん振って出席して下さい。(北村勝衛記)

四海会

◎二海会発足

昭和八年母校出身者の子弟が入学されると自然に本会の会員となるのです。というわけは、海四会会員の子供達の集りです。その第一回を昭和三年一月一日於学生ホール長尾、山本が同級生の子供を集めて夕飯を共にした。その時に命名したのが、即ち「二海会」です。その時の参加人員は三十六名。

その主旨は、私共が地方へ参った時に、いろいろと御迷惑をかけるその万分之一の御礼の意味と、母校に勉学されているお子様方に何かお役にたてばとの……事でありました。

第二回は、三六年五月一日後楽園スポーツ・グリルで行いました。折から上京されていた鈴木貞雄君(愛知県渥美町)の特別参加がありました。この会合におきまして、本会を年二回定期的にこれをもって、そのうち一回の、新入生歓迎会費は、長尾、山本がもち、あとの一回は卒業生送別会として、学生諸君がそれぞれ会費をもつことにしました。

近々第三回の会合を開きます。現在会員数四〇名、その他医局に二名衛生士学校助手一名となっております。本年は七名卒業の予定です。

鹿鳴会

◎正月元旦に母校へ針谷安太君(夕張市)年頭挨拶に来校されました。

正月三日、河原武男君(茨城県)、平井猛君(小樽市)が来校され、いろいろと語り合いました。

一月一八日末広良一君(札幌市)日歯会の齒槽膿漏症指導者講習会へ出席、母校へ来校されました。

◎小坂力君の長女、吉井三郎の長女さん方が、近々結婚式を挙げられます。誠にお目出度う御座います。

何か「ニュース」がおりますたら、委員長長宛御投稿下さい。

鹿鳴会会員の皆さん、御健勝で新春をお迎えなされたことと謹んでお祝い申し上げます。

さて私どもは本会の役員として昨年は、鹿鳴会会報第十五号を卒業二十五周年記念号として発行しただけで、肝腎な記念アルバムは少数会員の協力が得られず、甚だ遺憾ながら未定のままでまい、いち早く御応募下さいました方々は誠に申訳けない次第であります。本年はなるべく早くに完成すべく折角努力するつもりでおります。まだ写真をお送り下さらない方々は御自分だけの写真で結構です。少しでも内容の充実した記念となる立派なアルバム

の完成に是非とも御協力を頂きます。次に昨年十一月十一日に開催した第二十三回鹿鳴会総会の模様をお伝えします。今回は都合によって同窓会の前日、午後六時より東京上野、池の端観光閣(本会としては二度目)で開催しました。子供さんの母校に学または入試受験準備のためもあって、久方振りに相い見る珍客もおられました。当日の出席者は次の二十八名(地方別・△印は受験・○印は在学)

△松崎孝造、△佐々木三知夫、○市之川正二(北海道)、△高橋八十吉、○岩沼至(山形)、○鈴木義一(新潟)木村慎、○上野昭、△竹村善次郎(茨城)、藤尾木好、増田武夫、中村保夫、高木圭二、○小野武夫、今福晴夫、○武藤十郎、岡本伝、松本正一、畠栄、○伊丹一男、桑名真幸、○笠井久之、△高市章、木村吉太郎(東京)茂木正男、千葉、河村三省、○市川潔(静岡)、△山脇弘(岡山)。(木村吉太郎)

堅久会

卒業二十周年総会は案内通知の如く、十一月十二日午後三時より母校教室にて亡き友三十九名の慰霊祭を行った。故榊原君の御母堂がお忙し中を御出席下さり、級友の友情に謝辞を述べられた。それから溝上教授をお招きして祝賀会が盛大に行われた。溝上教授は堅久会諸兄の益々健康を期待すると激励された。母校の発展と堅久会の活躍のために万歳を三唱し神宮の森に別れを告げた。

当日の出席者は左記の四十三名である。

平、原田竜、大島、畑、荻野、清藤、上山、水野、遠藤、矢部、小林、柳沢、八田、石島、佐藤摩、朝浪、百束、伊能、林芳、大久保、服部、草谷、石川、渋谷、岡野、松浦、石

井、山崎数、小出、寺田、滝、清水岩並、小川涉、佐久間、内山、佐藤知、早川、甲田、伊藤春、山田泰、山田稔、高橋。

会費などの連絡は佐藤知也君宛にお願い致します。(高橋記)

一期会

△大寒に入りましたら急に寒さが厳しく相成り、当地でも早朝には相当気温が低下致します。今年は全国的に雪が多く、北海道、東北地方での寒さは格別かと存じますが、同地方の諸兄には呉々も御自愛下さいませようお祈り申し上げます。

△昨年十一月一日には「一期会関東地方会」を開催致しましたところ、極めて多数の諸兄が参会下され、盛會裡に終了致しましたことは、前号にて御報告致しました。

△さて、今秋には「卒業二十周年記念総会(第十回一期会)」を伊香保温泉にて催すことに決定致しましたが、その具体的記念事業として予定されている「一期会だより」の発行と「記念アルバム」の編集につきましては諸兄の絶大な御協力を願わなければ実現困難となること必常であります。本部におきましては近く役員会を開き、実行委員の依頼等、具体策を練るつもりであります。今後かかる意味で諸兄にも度々御連絡御依頼等があることと思いますが、その節には何卒よろしく御協力いただきますようお願い致します。

△昨年度発行の「一期会会員名簿」につき、左記の訂正、変更がありますので、ここにお知らせ致します。

- 相田英孝(電)田無(四三)内(九)五
○安藤 学(住)赤堤町二ノ四五七
○三宅昭典(勤)福山市新馬場町福山
織維ビル二階
○中川平吉(住)新潟県新発田市追手
先四一九 大塚方
○坂田三弥(住)新井町一ノ三
○多胡 彬(勤)電武蔵野(三三)
(二)五一六一
○安江祐二(電)(五八五)五七九四
(見明記)

五 期 会

かねてより渡米中であった今西孝博君は、昨年十二月初旬に無事帰京されました。

そこで五期会として歓迎会を計画し、スライド等を拝見かたがた、君からのアメリカ生活の色々をお聞かせ願うことになっております。特に東京近辺の諸君には奮って御参加下されんことをお願いいたします。

大体の予定は次の如くですが、追って往復ハガキにより出欠を決定いたします。

場 所 上野「わ多井」電(三三)三三三〇

台東区池ノ端仲町五

日時 二月十七日(土)午後六時

なお、当日は第一五六回東歯学会

十八日には同窓会の例会が学校にて催されます。

六 喜 会

寒さも一段ときびしさを加えてまいりましたが、諸兄弟には益々、御健康で家事に御多忙の事と存じます。扱て、本年、六喜会は、満五周年を迎える事になり、今さらながら、

才月の経つ早さをしみじみと感じさせられます。この五周年を記念致しまして前回総会で決められました様に、温泉にひたって五年間のほこりを落し、昔話しに花をさかせたいと思ひますので、前回にも増して多数御出席下さる様、今から御願ひします。尚、御同伴でも結構ですが会費は倍額以上をいただく様になるでしょう。(六喜会幹事一同)

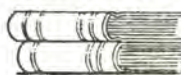
逝 去 会 員

- | | |
|-------------|--------------|
| 畑中林之助氏年月日不明 | 愛知 県 |
| 斎藤和理氏 | 三二、三〇 函館市 |
| 田中 正氏 | 年月日不明 北海道 |
| 甘利忠道氏 | 三三、九 神奈川 県 |
| 堀江知一氏 | 三六、三 島根 県 |
| 大川内元治氏 | 三五 神奈川 県 |
| 斎藤三郎氏 | 三六、二 港 区 |
| 野本亮介氏 | 三六、二 長崎 県 |
| 吉良吾三氏 | 三七、一五 熊本 県 |
| 和田 正氏 | 三六、八 神奈川 県 |
| 松富信一氏 | 三五、三、ハ 神奈川 県 |
| 鈴木今六氏 | 三二、三三 盛岡市 |
| 渡辺 孝氏 | 三二、三〇 目黒区 |
| 武田辰郎氏 | 三二、一三 秋田 県 |
| 光沢健雄氏 | (一)三、一九 香川 県 |
| 中村信義氏 | 三二、二、一 神奈川 県 |

現住所変更(敬称略)

- | | | |
|--------|---------|------------|
| 今村 武 | 三三 | 郡山市虎丸町九二 |
| (旧姓村松) | | |
| 帆足木五郎 | 三三 | 福岡県若松市堺町三丁 |
| 目 若松 | (七)五四五六 | |
| 日 高国雄 | 一五 | 足立区千住仲町二二 |
| 大橋康男 | 三三 | 一ノ三九ノ三〇六 |
| 鈴木晃治 | 二七 | 横浜市西区宮崎町四〇 |
| 横浜(三) | 九〇六九 | |

図書館だより



第十四号

左に列記したものは最近図書館で購入した専門書の一部です。このリストは逐次掲載されますから図書目録として御使用になれば御便利かと存じます。

「和 書」

- | | | |
|----------------|-------------------------------------|-----|
| 関根永滋 根管の処置上巻 日 | 中外医学社 | 昭三六 |
| 本歯科評論社 | 金竹哲也 歯科理工学通論 | 昭三七 |
| 昭三六 | 片桐英郎他編 生化学講座 | 昭三七 |
| 昭三六 | 微生物の生化学Ⅱ 8巻 医学の生化学Ⅱ 4巻 中間代謝の化学Ⅰ 12巻 | 昭三六 |
| 昭三六 | 遺伝 比較 発生の生化学 | 昭三六 |
| 昭三六 | 共立出版 | |

中沢清 前装鍍造冠(歯科写真文庫) 医歯薬出版 昭三六

小林幸男 抜髄 医歯薬出版 昭三六

質疑応答集Ⅱ 精神神経科編 昭三六

「洋 書」
World Directory of Dental Schools. Geneva, World Health Organization, 1961, 228p.

Sommer, Ralph Frederick & Strander, F. Darl & Crowley, Mary, C. Clinical Endodontics: a manual of scientific endodontics. 2nd ed. Philadelphia, W. B. Saunders Co., 1961, 620p.

Meyer, Wilhelm. Zahnärztliche Operationenlehre. München, Verlag von Urban & Schwarzenberg, 1961, 195p.

Olin, William H. Cleft Lip and Palate Rehabilitation. Springfield, Charles C Thomas. Publisher, 1960, 194p.

Allen, Arthur G. A Pocket Dental Prosthetics. London, J. & A. Churchill Ltd, 1961, 156p.

Holz, Rudolf. Orthodontia in Everyday Practice. Switzerland, Hans Huber Medical Publisher, 1961, 406p.

Kirsch, Theodor. Strahlengefährdung und Strahlenschutz in der Zahnärztlichen Röntgendiagnostik. Heidelberg, Alfred Hüthig Verlag GmbH, 1960, 59p.

Cohen, M. Michael. Pediatric Dentistry. 2nd ed. St. Louis, The C V Mosby Co., 1961, 567p.

Weissfeiler, J (ed) The Control of Poliomyelitis by Live Poliovirus Vaccine. Budapest, Akademiai Kiado, 1961, 156p.

Soehring, Klaus. Pharmakologie für Zahnärzte und Studierende der Zahnheilkunde. Konstanz, Zahnärztliche Welt, 1951, 246p.